

A. 日 時 2014年11月10日月曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本他 計11名

D. 提出資料（提出委員名も記入して下さい）

No. 08-01：第07回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）

No. 08-02：事務的書類

No. 08-03：振動・騒音対策に関する諸資料

No. 08-04：2011年東北地方太平洋沖自身における事務所建物在館者に対する体感アンケート調査

No. 08-05：性能評価法WG資料

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料08-01「第07回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）」について報告

※ 前回委員会議事録内容の確認

→ 承認された

2. 運営委員会活動報告および小委員会活動計画

A) 運営委員会報告

→ 運営委員会次期主査の選考等が12月に予定されている

B) 次年度以降の小委員会の活動について

→ 各種申請書類に関し、メール審議の後事務局へ提出

→ これまでの活動方針を踏襲

3. 議論

A) 資料08-03「振動・騒音対策に関する諸資料」について報告

※ 設備機器を対象とした防振対策について

→ 官公庁の設計指針（国交省における建築設備設計基準H21）

→ 人体側の反応を基準に騒音に関する指針と振動に関する指針を併記して必要な防振・遮音性能を構造種類・室用途・対象とする設備機器ごとに規定

→ 同等の資料を用いて設計等を行っている事例が見受けられるが、感覚機構の異なる聴覚と振動感覚を同一の図表に示してあるものもあり、誤解を生じる可能性もあり

B) 資料08-04「2011年東北地方太平洋沖自身における事務所建物在館者に対する体感アンケート調査」について報告

※ 3.11時のアンケート調査について

→ 行動難度・不安感とその際の建物振動実測値との関係

→ 時間が経過した後のアンケート調査であることは留意

→ 今後、地震に関する項目を評価指針に加えるか検討

C) 資料08-05「性能評価法WG資料」について報告

※ 評価法SWGの活動報告

→ 人体の振動評価に関する振動暴露の時間影響について

→ 「振動レベル+時間の1/4乗をレベル化したもの」が人体の評価との相関が高い

→ ただし、時間とは「あるレベル以上の振動が継続している時間」、あるレベルとは60dB近傍とするか？今後検討

→ 継続時間が長くなると上記同等の時間影響の加味では過剰となる可能性もある

3. 次回以降の課題

※ 「居住性能評価指針」と「設計指針」の位置づけについて

※ 評価指針への提言

※ 環境振動に関するホットな話題を随時募集

※ 評価WGでの活動内容の報告

※ 水平振動と鉛直振動を分けて考えているが？（交通振動に着目すると、水平と鉛直の両研究があるので関連付けることは可能か？）

次回の当委員会は、2015年2月20日（金曜日）17時30分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備（14部）されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。